

POINT
02

地球温暖化を避けるため、
北へ4.6キロ、逃げるための時間

ヒト(歩行) 1時間9分

チーター	2〜3分	ニレ	1〜3年
ウマ	4分	マツ	3年
ウサギ	4分	ハンノキ	2〜10年
イノシシ	6分	クヌギ	10〜15年
アフリカ象	7分	クリ・ブナ	5〜25年
カメ	9時間	トウヒ	10〜60年
カタツムリ	750時間	モミ	100〜150年

地球温暖化により1年間で4.6キロ南下が進むとすると、多くの動物はわずかな時間で、元の気象環境に近い北へ逃げる事ができます。しかし植物は50年や100年ほどかかるものもあり枯れてしまいます。これが生態系の崩壊につながります。



地球温暖化は、
何が問題なのか。

1時間で80ミリ以上降る、猛烈な雨の年間発生日数が増大しています。なぜ近年、こんなことになったのでしょうか。それは、地球温暖化により水蒸気量が増えているからです。

地球温暖化の進展の一例として、東京の平均気温が100年後には3℃上昇し、現在の鹿児島ぐらいの気温になるといわれています。東京と鹿児島の距離は460キロですから、1年に4.6キロずつ南化が進んでいることになります。その温暖化を避けるために人間は、4.6キロずつ北へ向かえばいいのですが、植物はそういうわけにはいきません。

植物が減ると、根っこにいる小さな生物も一緒に減ってしまいます。食物連鎖をたどっていくとやがては大型哺乳動物や人間も危なくなり、地球全体の生態系が脅かされてしまいます。これが地球温暖化の問題の一番恐ろしいところなのです。



私たちにできることは、
何だろう。

地球温暖化を解決するためには、二酸化炭素を出した分だけ減らすことをはじめ、再生可能エネルギーや原子力なども加えたエネルギーミックスなど、いろいろな対策を組み合わせることが重要です。

何よりも大切なのは、環境問題は生態系の問題だということを知ってもらうことです。地球温暖化が進むと、雨が增える、干ばつが増えるという目に見えるところばかり注目しがちですが、本当の問題点は生態系の崩壊なのです。

環境に配慮した企業を応援することも、私たちにできることです。例えばスーパーに行くと、値段は高いのですが環境に配慮した商品が置かれていますよね。これはナッジ理論といって、みんなが気付かないうちに環境に配慮した行動を促すことにつながるのです。

こうした積み重ねや世界的な潮流を受け、個人的にも頭の片隅に環境配慮を置くことで、最初にお伝えしたオゾン層や光化学スモッグと同様に、地球温暖化も解決できるのではないかと考えています。

POINT
03

まとめとして、
私たちにできること。

カーボンニュートラル

出した分だけ減らす

- 省エネ
- 森林の増加
- 再生可能エネルギー＝再生可能エネルギー (太陽光・地熱・風力など)

個人では

- 環境問題を知って人に伝える
- 環境に配慮した企業を応援する

環境エネルギー講演

& オーケストラ・アンサンブル金沢弦楽四重奏

福井県環境・エネルギー懇話会は毎年、エネルギーや環境問題を考える講演&コンサートを開催しています。今回は、日本初のフリーお天気キャスターの森田正光さんが登壇。地球温暖化と気象、さらに生態系の問題に触れ、その対策を分かりやすく教えてくださいました。本誌は、2024年3月10日(日)に開催された講演をダイジェストで紹介します。

第1部

異常気象と環境問題

～どうなる地球温暖化～

講師

気象予報士 (株式会社ウェザーマップ) **森田 正光** 氏

1950年名古屋市生まれ。財団法人日本気象協会を経て、1992年初のフリーお天気キャスターとなる。同年、民間の気象会社 株式会社ウェザーマップを設立。親しみやすいキャラクターと個性的な気象解説で人気を集め、テレビやラジオ出演のほか全国で講演活動も行っている。2005年財団法人日本生態系協会理事に就任し、2010年からは環境省が結成した生物多様性に関する広報組織「地球いきもの応援団」のメンバーとして活動。環境問題や異常気象についての分析にも定評がある。



地球温暖化は、
止められる。

私はまもなく74歳となり、全国のお天気キャスターで最年長です。さて、そんな私の異常気象への考え方は、世間でいわれているのとは違い、やや楽観的です。ひょっとすると温暖化は止められるのではないかと考えているからです。

今から40年ぐらい前に問題視されていた、オゾンホールを思い出してみてください。フロンガスがオゾン層を破壊し穴が開くことで、紫外線量が増え皮膚がん患者は4倍から6倍になり、人間は地球で住めなくなるといわれていました。しかし1980年代後半以降、オゾンホールの原因となるフロンガスを全廃しようという動きが世界中で広がり、現在、オゾン層は回復しつつあります。

それともう一つ、光化学スモッグも自動車の排気ガス規制が功を奏しました。1970年代、東京で光化学スモッグ注意報の発表日数が40から50日間ありましたが、昨年は7日間に減りました。東京から富士山を望める日も、昨年は120日間にまで増えました。地球温暖化もこうして止めることができるのではないのでしょうか。もちろん、みんなでやらないと駄目なのですが。

POINT
01

雨を降らせる積乱雲と、
最も危険な「かなとこ雲」。



上は、1772年生まれイギリスの気象学者、ルーク・ハワードが描いた積乱雲。下はその積乱雲のうち、雲の下に竜巻と大雷雨を起こす「かなとこ雲」の写真。

第2部

オーケストラ・アンサンブル金沢 弦楽四重奏

幅広い演奏活動を通して高い評価を得ている、オーケストラ・アンサンブル金沢による弦楽四重奏の演奏会が行われました。



曲目

- ハイドン 弦楽四重奏曲 第78番 作品76-4「日の出」より第1楽章
- ラフマニノフ 弦楽四重奏曲 第1番
- モーツァルト 弦楽四重奏曲 第14番「春」

